

卵アレルギー児の栄養調査について

伊藤 節子

要約：食物アレルギーの関与したアトピー性皮膚炎において、アレルギー除去食により食生活が単調になったり栄養上の問題も生じる可能性があるため、卵除去食実施中の1歳児を対象に、同年齢の除去食を行っていない健診児を対照として、栄養摂取量と体重とを目安に栄養調査を行った。その結果、医療機関にて適切な指導を受けている限り、アレルギー除去食には栄養上の問題を生じないことが明らかになった。

見出し語：アトピー性皮膚炎，卵アレルギー，アレルギー除去食，栄養摂取量

乳幼児のアトピー性皮膚炎の原因として、最近、食物アレルギーの関与が注目されており、アレルギー除去食の有用性も認められている。一方、極端な食物制限のため栄養上の問題を生じた例も報告されており、適切な指導が望まれている。そこで、食事指導のあり方を探る目的で、アレルギー除去食実施中の1歳児の栄養摂取量と栄養状態について検討した。

病院小児科アレルギー外来を受診した19例を対象とした。この19例の母親に食事記入表を渡し、摂取した食品の種類と量とを2-3日分記入するよう依頼し、4週間後の再診時に持参したものについて、1日の平均栄養摂取量の計算を行った。これらの症例では、卵は二次製品も含めて除去しているが、他の食物については制限することなく、受診時毎に食事記録をチェックしアレルギー以外の食物については摂取を勧め、摂取食品数をふやすように指導してきた。片村らのパイロットスタディで行った1歳6カ月健診児の栄養調査において摂取量計算が可能な記載がなされていた19例（以下健診児とする）の栄養摂取量も同一のソフト

【対象および方法】卵アレルギーによるアトピー性皮膚炎として卵除去食実施中の1歳児（平均年齢1歳3.7カ月）（以上卵アレルギー児とする）で、1992年12月14日から22日の間に医仁会武田総合

医仁会武田総合病院小児科 (Department of Pediatrics, Takeda General Hospital)

を用いて計算し、これを対照とした。これらのデータをもとに、卵アレルギー児と健診児との間で栄養摂取量の比較検討を行った。卵アレルギー児については、生下時、1歳時、1歳6カ月時の体重と、母親の妊娠中の食事制限の有無についても調査した。

【結果】卵アレルギー児と健診児の1日摂取食品数および、1日のエネルギー、蛋白質、カルシウムの摂取量と脂肪エネルギー比の平均を表1に示した。また、両群の摂取量の1歳児の栄養所要量に対する百分率を計算し、表1の（ ）内と図1に示した。卵アレルギー児の1日の平均摂取食品数は20.0品目で、健診児の15.8品目より多く、より豊かな食生活を営んでいると考えられた。実際に栄養摂取量を計算してみると、卵アレルギー児の1日の平均摂取カロリー、蛋白質、カルシウム、鉄量は、いずれも健診児の摂取量を上回っていた。特に多かったのは蛋白質、カルシウム、鉄であり、摂取している食品数の多さを反映していると考えられた。一方、脂肪エネルギー比は、卵アレルギー児の方が健診児よりも低いが、これは、成人病の予防という観点からはむしろ望ましいと考える。次に、卵アレルギー児の生下時、1歳時、1歳6カ月時の体重を表2に示す。いずれの時点での平均体重も1988年度標準体重と有意差はなく、

体重増加からみるかぎり、卵除去食による栄養上の弊害はみられなかった。母親の妊娠中の食事制限の有無について、アンケートをとったところ、卵、牛乳の摂取をひかえていたものは19例中6例(31.6%)で、この6例中5例(83.3%)は医師の指示によらずに、母親の判断によるものであった。

【考案】今回の調査では、卵除去食実施中の卵アレルギーによるアトピー性皮膚炎(平均年齢1歳3.7カ月)の1日の摂取食品数、栄養摂取量を除去食を行っていない1歳半健診児と比較した。その結果、摂取食品数、栄養のバランスとも前者の方が優れていることが明らかになり、また卵除去食による栄養面での弊害も、体重の増加の面からは認められなかった。今回の調査の対象としたのは、卵アレルギーによるアトピー性皮膚炎であり、治療の一環として、アレルゲン除去を目的に、卵除去を指導してきた。今回のデータからは、定期的に医師の指導をうけながら、アレルゲンのみを完全に除去し、他の食品についてはできるだけ摂取する食品数を多くし、ミネラル類の摂取にも注意を向ければ、食事内容に特別な注意を払わない一般児よりもむしろバランスのよい食事となることが明らかとなった。今後は、摂取する脂質や必須脂肪酸の種類も含めて検討し、食事指導のあり方について更に検討をすすめる予定である。

表1 1日栄養摂取量

	栄養所要量	卵アレルギー児	健診児
エネルギー (Kcal)	935	930.6 ± 135.7 (99.5%)	915.4 ± 187.4 (97.9%)
脂肪エネルギー比 (%)	27.5	24.0 ± 6.7 (87.2%)	26.9 ± 5.6 (97.8%)
蛋白質 (g)	30	40.0 ± 8.1 (133.3%)	33.8 ± 8.9 (112.7%)
カルシウム (mg)	400	445.1 ± 147.0 (111.3%)	299.3 ± 125.7 (74.8%)
鉄 (mg)	7	6.0 ± 2.3 (85.7%)	3.9 ± 1.4 (56.6%)
1日摂取食品数		20.0 ± 4.9	15.8 ± 3.1

図1 栄養所要量からみたエネルギー，蛋白質，カルシウム，鉄，摂取量と脂肪エネルギー比率

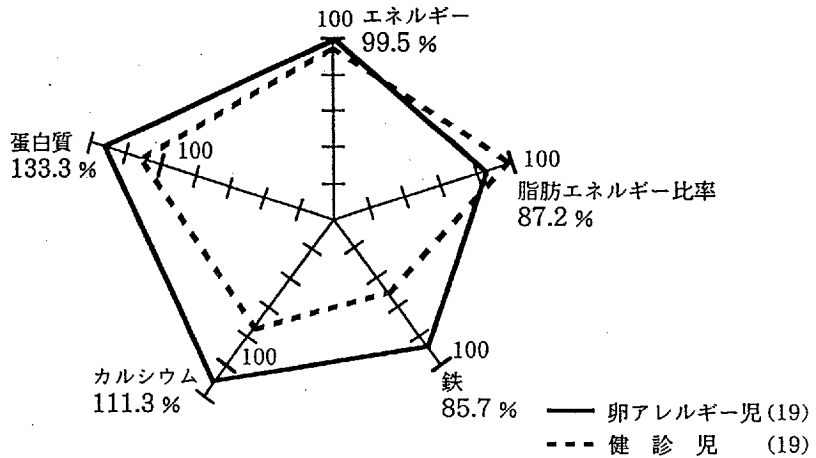


表2 卵アレルギー児の体重 (kg : 平均±標準偏差)

	卵アレルギー児の体重	1988年度標準体重 { 男 女
生下時体重 (人数)	3.13 ± 0.32 (19)	{ 3.20 ± 0.41 3.14 ± 0.40
1歳時体重 (人数)	9.75 ± 0.74 (19)	{ 9.77 ± 1.02 9.29 ± 0.80
1歳6カ月時体重 (人数)	10.38 ± 0.90 (7)	{ 11.22 ± 1.34 10.41 ± 0.94



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:食物アレルギーの関与したアトピー性皮膚炎において、アレルゲン除去食により食生活が単調になったり栄養上の問題も生じる可能性があるため、卵除去食実施中の1歳児を対象に、同年齢の除去食を行っていない健診児を対照として、栄養摂取量と体重とを目安に栄養調査を行った。その結果、医療機関にて適切な指導を受けている限り、アレルゲン除去食には栄養上の問題を生じないことが明らかになった。